

ある洋画家の誕生

百武兼行と19世紀後半のヨーロッパ

一日時二 2025 3月22日(土)

13時30分〜15時 (開場13時)

一会場一 佐賀城本丸歴史館外御書院

一講師一 吉住磨子氏

(佐賀大学芸術地域デザイン学部教授)

[聴講無料・当日受付]



百武兼行《マンドリンを持つ少女》1879年、公益財団法人鍋島報效会蔵
佐賀県重要文化財

佐賀出身の百武兼行(1842〜84)は、日本近代初期洋画史上、非常に重要な画家で、日本人で最も早くヨーロッパで洋画の教育を受けた画家の一人、また、日本人で最も早く裸体画を描いた画家の一人として、遍く知られている。一方で、百武と明治初期の日本洋画界との関わりはごく限られたものであり、しかも、百武はイタリアから帰国後間もなく病に罹り、亡くなってしまったため、百武がヨーロッパ(英、仏、伊)で学んだ考えや様式が日本国内にいた画家たちと直接共有されることはなかった。そのため、日本近代初期洋画史における百武の評価はいまだに曖昧なままである。講演者は過去9年間にわたり、ヨーロッパにおける百武の動向を調査し、百武の再評価を試みようとしてきた。本ゼミナールでは、講演者のそのような近年の百武研究の成果の一部をご紹介します。

佐賀県立 佐賀城本丸歴史館
SAGA CASTLE HISTORY MUSEUM

〒840-0041 佐賀市城内二丁目18-1
TEL:0952-41-7550 FAX:0952-28-0220



佐賀らしいやさしさで
みなさんをお迎えます。
ゼミナール参加にあたり、事前に確認
したいこと、配慮が必要な事項があれ
ば、お気軽にお問い合わせください。



身障者など
駐車場あり



車イス対応
トイレあり



授乳室
あり

佐賀城本丸歴史館

検索

佐賀県

© 2025 Saga Prefecture.